

ビジネス実務法務検定試験2級 - 債権の管理と回収

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q001 BL2-003

債権の管理と回収 / 与信管理 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
与信管理では、取引先の信用状態を確認し取引限度額を設定する。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい
超簡単な解説：決算書・支払実績・信用情報などを確認する。
要点：与信管理

Q002 BL2-004

債権の管理と回収 / 譲渡担保 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
譲渡担保は、日本の実務で担保として利用されない。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り
超簡単な解説：清算義務など判例法理に注意する。
要点：譲渡担保

Q003 BL2-019

債権の管理と回収 / 売掛金管理 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
売掛金管理では、請求・入金・滞留状況を継続的に把握する。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい
超簡単な解説：早期発見が回収率を左右する。
要点：売掛金管理

Q004 BL2-020

債権の管理と回収 / 仮処分 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
仮処分は、金銭債権の最終回収だけを意味する。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り
超簡単な解説：差止めや地位保全などで使われる。
要点：仮処分

Q005 BL2-035

債権の管理と回収 / 債権譲渡対抗要件 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
指名債権譲渡では、債務者対抗要件・第三者対抗要件が問題となる。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい
超簡単な解説：通知・承諾や確定日付ある証書が重要である。
要点：債権譲渡対抗要件

ビジネス実務法務検定試験2級 - 債権の管理と回収

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q006 BL2-036

債権の管理と回収 / 支払督促 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
支払督促は、債務者が異議を出しても通常訴訟に移行しない。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り

超簡単な解説：異議申立てがあると訴訟へ移行する。

要点：支払督促

Q007 BL2-051

債権の管理と回収 / 債権者代位権 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
債権者代位権は、債務者の権利を債権者が代わって行使する制度である。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい

超簡単な解説：債権保全のための民法上の制度である。

要点：債権者代位権

Q008 BL2-052

債権の管理と回収 / 破産手続 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
破産手続は、債務者の事業継続を必ず前提とする再建型手続である。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り

超簡単な解説：清算型倒産手続である。

要点：破産手続

Q009 BL2-067

債権の管理と回収 / 詐害行為取消権 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
詐害行為取消権は、債務者の責任財産を不当に減少させる行為を取り消す制度である。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい

超簡単な解説：債務者の財産散逸に対応する。

要点：詐害行為取消権

Q010 BL2-068

債権の管理と回収 / 民事再生 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
民事再生は、法人に一切利用できない手続である。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り

超簡単な解説：再生計画に基づく弁済を行う。

要点：民事再生

ビジネス実務法務検定試験2級 - 債権の管理と回収

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q011 BL2-083

債権の管理と回収 / 先取特権 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
先取特権は、法律上当然に生じる優先弁済権である。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい
超簡単な解説：一般先取特権・特別先取特権がある。
要点：先取特権

Q012 BL2-084

債権の管理と回収 / 会社更生 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
会社更生は、個人だけを対象とする倒産手続である。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り
超簡単な解説：担保権者も手続に取り込まれる点の特徴である。
要点：会社更生

Q013 BL2-099

債権の管理と回収 / 根抵当権 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
根抵当権は、一定範囲の不特定債権を極度額の範囲で担保する。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい
超簡単な解説：継続取引の担保として利用される。
要点：根抵当権

Q014 BL2-100

債権の管理と回収 / 別除権 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
破産手続では、担保権者は常に担保権を失う。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り
超簡単な解説：担保権の扱いは倒産手続ごとに異なる。
要点：別除権

Q015 BL2-114

債権の管理と回収 / 与信管理 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
与信管理は、売掛金回収リスクと一切関係がない。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り
超簡単な解説：決算書・支払実績・信用情報などを確認する。
要点：与信管理

ビジネス実務法務検定試験2級 - 債権の管理と回収

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q016 BL2-115

債権の管理と回収 / 譲渡担保 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
譲渡担保は、所有権移転形式を利用した非典型担保である。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい
超簡単な解説：清算義務など判例法理に注意する。
要点：譲渡担保

Q017 BL2-130

債権の管理と回収 / 売掛金管理 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
売掛金は、発生後に管理しなくても法的リスクはない。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り
超簡単な解説：早期発見が回収率を左右する。
要点：売掛金管理

Q018 BL2-131

債権の管理と回収 / 仮処分 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
仮処分は、権利関係を保全するための民事保全手続である。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい
超簡単な解説：差止めや地位保全などで使われる。
要点：仮処分

Q019 BL2-146

債権の管理と回収 / 債権譲渡対抗要件 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
債権譲渡では、対抗要件は一切問題にならない。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り
超簡単な解説：通知・承諾や確定日付ある証書が重要である。
要点：債権譲渡対抗要件

Q020 BL2-147

債権の管理と回収 / 支払督促 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
支払督促は、簡易迅速に金銭債権の名義取得を図る手続である。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい
超簡単な解説：異議申立てがあると訴訟へ移行する。
要点：支払督促

ビジネス実務法務検定試験2級 - 債権の管理と回収

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q021 BL2-162

債権の管理と回収 / 債権者代位権 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
債権者代位権は、債務者の権利を消滅させるだけの制度である。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り

超簡単な解説：債権保全のための民法上の制度である。

要点：債権者代位権

Q022 BL2-163

債権の管理と回収 / 破産手続 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
破産手続は、債務者の財産を換価し債権者に配当する清算型手続である。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい

超簡単な解説：清算型倒産手続である。

要点：破産手続

Q023 BL2-173

債権の管理と回収 / 債権者代位権 / 形式：2択

次のうち、「債権者代位権」について正しい説明はどちらか。

1. 債権者代位権は、債務者の権利を債権者が代わって行使する制度である。
2. 利益相反取引は、会社法上いかなる規制も受けない。

答え・解説

正答：債権者代位権は、債務者の権利を債権者が代わって行使する制度である。

超簡単な解説：債権保全のための民法上の制度である。

要点：債権者代位権

Q024 BL2-174

債権の管理と回収 / 破産手続 / 形式：2択

次のうち、「破産手続」について正しい説明はどちらか。

1. 支払督促は、債務者が異議を出しても通常訴訟に移行しない。
2. 破産手続は、債務者の財産を換価し債権者に配当する清算型手続である。

答え・解説

正答：破産手続は、債務者の財産を換価し債権者に配当する清算型手続である。

超簡単な解説：清算型倒産手続である。

要点：破産手続

Q025 BL2-189

債権の管理と回収 / 詐害行為取消権 / 形式：2択

次のうち、「詐害行為取消権」について正しい説明はどちらか。

1. 詐害行為取消権は、債務者の責任財産を不当に減少させる行為を取り消す制度である。
2. 有利誤認表示は、景品表示法上常に適法である。

答え・解説

正答：詐害行為取消権は、債務者の責任財産を不当に減少させる行為を取り消す制度である。

超簡単な解説：債務者の財産散逸に対応する。

要点：詐害行為取消権

ビジネス実務法務検定試験2級 - 債権の管理と回収

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q026 BL2-190

債権の管理と回収 / 民事再生 / 形式：2択

次のうち、「民事再生」について正しい説明はどちらか。

1. 保全命令は、判決確定後にだけ必ず出される命令である。
2. 民事再生は、債務者の事業・生活の再建を目的とする手続である。

答え・解説

正答：民事再生は、債務者の事業・生活の再建を目的とする手続である。
超簡単な解説：再生計画に基づく弁済を行う。

要点：民事再生

Q027 BL2-205

債権の管理と回収 / 先取特権 / 形式：2択

次のうち、「先取特権」について正しい説明はどちらか。

1. 先取特権は、法律上当然に生じる優先弁済権である。
2. 有利誤認表示は、景品表示法上常に適法である。

答え・解説

正答：先取特権は、法律上当然に生じる優先弁済権である。
超簡単な解説：一般先取特権・特別先取特権がある。

要点：先取特権

Q028 BL2-206

債権の管理と回収 / 会社更生 / 形式：2択

次のうち、「会社更生」について正しい説明はどちらか。

1. 外国判決は、日本で常に自動的かつ無条件に強制執行できる。
2. 会社更生は、株式会社の大規模再建に用いられる倒産手続である。

答え・解説

正答：会社更生は、株式会社の大規模再建に用いられる倒産手続である。
超簡単な解説：担保権者も手続に取り込まれる点が特徴である。

要点：会社更生

Q029 BL2-221

債権の管理と回収 / 根抵当権 / 形式：2択

次のうち、「根抵当権」について正しい説明はどちらか。

1. 根抵当権は、一定範囲の不特定債権を極度額の範囲で担保する。
2. 完全合意条項は、契約締結後に必ず全条項を無効にする条項である。

答え・解説

正答：根抵当権は、一定範囲の不特定債権を極度額の範囲で担保する。
超簡単な解説：継続取引の担保として利用される。

要点：根抵当権

Q030 BL2-222

債権の管理と回収 / 別除権 / 形式：2択

次のうち、「別除権」について正しい説明はどちらか。

1. 公開会社とは、上場会社だけを意味する。
2. 破産手続では、担保権者が別除権として手続外で権利行使できる場合がある。

答え・解説

正答：破産手続では、担保権者が別除権として手続外で権利行使できる場合がある。

超簡単な解説：担保権の扱いは倒産手続ごとに異なる。

要点：別除権

ビジネス実務法務検定試験2級 - 債権の管理と回収

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q031 BL2-236

債権の管理と回収 / 与信管理 / 形式：2択

次のうち、「与信管理」について正しい説明はどちらか。

1. 目的条項は、契約解釈において常に完全に無意味である。
2. 与信管理では、取引先の信用状態を確認し取引限度額を設定する。

答え・解説

正答：与信管理では、取引先の信用状態を確認し取引限度額を設定する。
超簡単な解説：決算書・支払実績・信用情報などを確認する。

要点：与信管理

Q032 BL2-237

債権の管理と回収 / 譲渡担保 / 形式：2択

次のうち、「譲渡担保」について正しい説明はどちらか。

1. 譲渡担保は、所有権移転形式を利用した非典型担保である。
2. 商標の類否は、文字数だけで機械的に決まる。

答え・解説

正答：譲渡担保は、所有権移転形式を利用した非典型担保である。
超簡単な解説：清算義務など判例法理に注意する。

要点：譲渡担保

Q033 BL2-252

債権の管理と回収 / 売掛金管理 / 形式：2択

次のうち、「売掛金管理」について正しい説明はどちらか。

1. 裁判上の和解は、裁判所外の口約束だけを意味する。
2. 売掛金管理では、請求・入金・滞留状況を継続的に把握する。

答え・解説

正答：売掛金管理では、請求・入金・滞留状況を継続的に把握する。
超簡単な解説：早期発見が回収率を左右する。

要点：売掛金管理

Q034 BL2-253

債権の管理と回収 / 仮処分 / 形式：2択

次のうち、「仮処分」について正しい説明はどちらか。

1. 仮処分は、権利関係を保全するための民事保全手続である。
2. 所有権留保は、売買契約で一切利用できない。

答え・解説

正答：仮処分は、権利関係を保全するための民事保全手続である。
超簡単な解説：差止めや地位保全などで使われる。

要点：仮処分

Q035 BL2-268

債権の管理と回収 / 債権譲渡対抗要件 / 形式：2択

次のうち、「債権譲渡対抗要件」について正しい説明はどちらか。

1. 個人データは、漏えいしても安全管理措置の有無は問われない。
2. 指名債権譲渡では、債務者対抗要件・第三者対抗要件が問題となる。

答え・解説

正答：指名債権譲渡では、債務者対抗要件・第三者対抗要件が問題となる。
超簡単な解説：通知・承諾や確定日付ある証書が重要である。

要点：債権譲渡対抗要件

ビジネス実務法務検定試験2級 - 債権の管理と回収

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q036 BL2-269

債権の管理と回収 / 支払督促 / 形式：2択

次のうち、「支払督促」について正しい説明はどちらか。

1. 支払督促は、簡易迅速に金銭債権の名義取得を図る手続である。
2. 証人尋問は、契約条項を自動的に作成する手続である。

答え・解説

正答：支払督促は、簡易迅速に金銭債権の名義取得を図る手続である。
超簡単な解説：異議申立てがあると訴訟へ移行する。

要点：支払督促

Q037 BL2-284

債権の管理と回収 / 債権者代位権 / 形式：2択

次のうち、「債権者代位権」について正しい説明はどちらか。

1. CISGは、当事者の合意で一切排除できない。
2. 債権者代位権は、債務者の権利を債権者が代わって行使する制度である。

答え・解説

正答：債権者代位権は、債務者の権利を債権者が代わって行使する制度である。

超簡単な解説：債権保全のための民法上の制度である。

要点：債権者代位権

Q038 BL2-285

債権の管理と回収 / 破産手続 / 形式：2択

次のうち、「破産手続」について正しい説明はどちらか。

1. 破産手続は、債務者の財産を換価し債権者に配当する清算型手続である。
2. 表明保証は、売買契約やM&Aでは絶対に使われない。

答え・解説

正答：破産手続は、債務者の財産を換価し債権者に配当する清算型手続である。

超簡単な解説：清算型倒産手続である。

要点：破産手続

Q039 BL2-300

債権の管理と回収 / 詐害行為取消権 / 形式：2択

次のうち、「詐害行為取消権」について正しい説明はどちらか。

1. 証人尋問は、契約条項を自動的に作成する手続である。
2. 詐害行為取消権は、債務者の責任財産を不当に減少させる行為を取り消す制度である。

答え・解説

正答：詐害行為取消権は、債務者の責任財産を不当に減少させる行為を取り消す制度である。

超簡単な解説：債務者の財産散逸に対応する。

要点：詐害行為取消権

Q040 BL2-301

債権の管理と回収 / 民事再生 / 形式：2択

次のうち、「民事再生」について正しい説明はどちらか。

1. 民事再生は、債務者の事業・生活の再建を目的とする手続である。
2. 会計監査人は、会社の営業販売だけを担当する従業員である。

答え・解説

正答：民事再生は、債務者の事業・生活の再建を目的とする手続である。

超簡単な解説：再生計画に基づく弁済を行う。

要点：民事再生

ビジネス実務法務検定試験2級 - 債権の管理と回収

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q041 BL2-316

債権の管理と回収 / 先取特権 / 形式：2択

次のうち、「先取特権」について正しい説明はどちらか。

1. 民事再生は、法人に一切利用できない手続である。
2. 先取特権は、法律上当然に生じる優先弁済権である。

答え・解説

正答：先取特権は、法律上当然に生じる優先弁済権である。

超簡単な解説：一般先取特権・特別先取特権がある。

要点：先取特権

Q042 BL2-317

債権の管理と回収 / 会社更生 / 形式：2択

次のうち、「会社更生」について正しい説明はどちらか。

1. 会社更生は、株式会社の大規模再建に用いられる倒産手続である。
2. 株主名簿は、株式会社では作成してはならない。

答え・解説

正答：会社更生は、株式会社の大規模再建に用いられる倒産手続である。

超簡単な解説：担保権者も手続に取り込まれる点が特徴である。

要点：会社更生

Q043 BL2-332

債権の管理と回収 / 根抵当権 / 形式：2択

次のうち、「根抵当権」について正しい説明はどちらか。

1. 取締役は、会社に対して何ら注意義務を負わない。
2. 根抵当権は、一定範囲の不特定債権を極度額の範囲で担保する。

答え・解説

正答：根抵当権は、一定範囲の不特定債権を極度額の範囲で担保する。

超簡単な解説：継続取引の担保として利用される。

要点：根抵当権

Q044 BL2-333

債権の管理と回収 / 別除権 / 形式：2択

次のうち、「別除権」について正しい説明はどちらか。

1. 破産手続では、担保権者が別除権として手続外で権利行使できる場合がある。
2. 下請代金の支払遅延は、下請法上常に許される。

答え・解説

正答：破産手続では、担保権者が別除権として手続外で権利行使できる場合がある。

超簡単な解説：担保権の扱いは倒産手続ごとに異なる。

要点：別除権

Q045 BL2-338

債権の管理と回収 / 先取特権 / 形式：4択

次のうち、「先取特権」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 利益相反取引は、会社法上いかなる規制も受けない。
2. 先取特権は、法律上当然に生じる優先弁済権である。
3. 国際私法は、刑務所の管理だけを定める法律である。
4. 優越的地位の濫用は、独占禁止法上まったく問題にならない。

答え・解説

正答：先取特権は、法律上当然に生じる優先弁済権である。

超簡単な解説：一般先取特権・特別先取特権がある。

要点：先取特権

ビジネス実務法務検定試験2級 - 債権の管理と回収

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q046 BL2-339

債権の管理と回収 / 会社更生 / 形式：4択

次のうち、「会社更生」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 国際仲裁は、当事者の合意がなくても常に強制される刑事手続である。
2. 会社更生は、株式会社の大規模再建に用いられる倒産手続である。
3. 債権譲渡では、対抗要件は一切問題にならない。
4. 電子契約は、紙の契約書がないため法律上必ず無効となる。

答え・解説

正答：会社更生は、株式会社の大規模再建に用いられる倒産手続である。
超簡単な解説：担保権者も手続に取り込まれる点が特徴である。
要点：会社更生

Q047 BL2-354

債権の管理と回収 / 根抵当権 / 形式：4択

次のうち、「根抵当権」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 根抵当権は、一定範囲の不特定債権を極度額の範囲で担保する。
2. 所有権留保は、売買契約で一切利用できない。
3. 国際送金は、相手国や制裁対象に関係なく常に自由である。
4. 会社更生は、個人だけを対象とする倒産手続である。

答え・解説

正答：根抵当権は、一定範囲の不特定債権を極度額の範囲で担保する。
超簡単な解説：継続取引の担保として利用される。
要点：根抵当権

Q048 BL2-355

債権の管理と回収 / 別除権 / 形式：4択

次のうち、「別除権」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 清算条項は、紛争解決後の再紛争防止と無関係である。
2. 時間外労働をさせても、割増賃金は一切不要である。
3. 破産手続では、担保権者が別除権として手続外で権利行使できる場合がある。
4. 危険移転条項は、物品売買では絶対に定めてはならない。

答え・解説

正答：破産手続では、担保権者が別除権として手続外で権利行使できる場合がある。
超簡単な解説：担保権の扱いは倒産手続ごとに異なる。
要点：別除権

Q049 BL2-369

債権の管理と回収 / 与信管理 / 形式：4択

次のうち、「与信管理」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 時効完成猶予は、時効期間を過去に戻して消滅させる制度である。
2. 使用者は、労働組合からの団体交渉を常に自由に拒否できる。
3. 労働者派遣では、派遣先は一切の法的義務を負わない。
4. 与信管理では、取引先の信用状態を確認し取引限度額を設定する。

答え・解説

正答：与信管理では、取引先の信用状態を確認し取引限度額を設定する。
超簡単な解説：決算書・支払実績・信用情報などを確認する。
要点：与信管理

Q050 BL2-370

債権の管理と回収 / 譲渡担保 / 形式：4択

次のうち、「譲渡担保」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 補償条項は、損失負担を一切定めてはならない条項である。
2. 株式会社は、利益がなくても無制限に配当できる。
3. インサイダー取引は、市場の公正性を高めるため常に許される。
4. 譲渡担保は、所有権移転形式を利用した非典型担保である。

答え・解説

正答：譲渡担保は、所有権移転形式を利用した非典型担保である。
超簡単な解説：清算義務など判例法理に注意する。
要点：譲渡担保

ビジネス実務法務検定試験2級 - 債権の管理と回収

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q051 BL2-385

債権の管理と回収 / 売掛金管理 / 形式：4択

次のうち、「売掛金管理」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 売掛金管理では、請求・入金・滞留状況を継続的に把握する。
2. 労働者派遣では、派遣先は一切の法的義務を負わない。
3. 制裁条項は、国際取引のリスク管理と無関係である。
4. 民事再生は、法人に一切利用できない手続である。

答え・解説

正答：売掛金管理では、請求・入金・滞留状況を継続的に把握する。
超簡単な解説：早期発見が回収率を左右する。

要点：売掛金管理

Q052 BL2-386

債権の管理と回収 / 仮処分 / 形式：4択

次のうち、「仮処分」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 売掛金は、発生後に管理しなくても法的リスクはない。
2. 仮処分は、権利関係を保全するための民事保全手続である。
3. 時効更新は、時効期間を常に半分に短縮する制度である。
4. 解除条項は、契約書に定めることが法律上禁止されている。

答え・解説

正答：仮処分は、権利関係を保全するための民事保全手続である。
超簡単な解説：差止めや地位保全などで使われる。

要点：仮処分

Q053 BL2-401

債権の管理と回収 / 債権譲渡対抗要件 / 形式：4択

次のうち、「債権譲渡対抗要件」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 非公開会社は、会社情報を一切作成しなくてよい会社である。
2. インコタームズは、国内の労働時間を定める法律である。
3. 指名債権譲渡では、債務者対抗要件・第三者対抗要件が問題となる。
4. 損害賠償額の予定を置くと、契約違反があっても賠償請求できなくなる。

答え・解説

正答：指名債権譲渡では、債務者対抗要件・第三者対抗要件が問題となる。
超簡単な解説：通知・承諾や確定日付ある証書が重要である。

要点：債権譲渡対抗要件

Q054 BL2-402

債権の管理と回収 / 支払督促 / 形式：4択

次のうち、「支払督促」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 外国判決は、日本で常に自動的にかつ無条件に強制執行できる。
2. 支払督促は、簡易迅速に金銭債権の名義取得を図る手続である。
3. ドメイン名は、商標権や不正競争防止法と一切関係しない。
4. 使用者は、職場の安全について一切配慮義務を負わない。

答え・解説

正答：支払督促は、簡易迅速に金銭債権の名義取得を図る手続である。
超簡単な解説：異議申立てがあると訴訟へ移行する。

要点：支払督促

Q055 BL2-417

債権の管理と回収 / 債権者代位権 / 形式：4択

次のうち、「債権者代位権」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 債権者代位権は、債務者の権利を債権者が代わって行使する制度である。
2. インサイダー取引は、市場の公正性を高めるため常に許される。
3. 不可抗力条項は、当事者の故意による不履行だけを免責する条項である。
4. CISGは、当事者の合意で一切排除できない。

答え・解説

正答：債権者代位権は、債務者の権利を債権者が代わって行使する制度である。

超簡単な解説：債権保全のための民法上の制度である。

要点：債権者代位権

ビジネス実務法務検定試験2級 - 債権の管理と回収

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q056 BL2-418

債権の管理と回収 / 破産手続 / 形式：4択

次のうち、「破産手続」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 株主代表訴訟は、役員が株主を訴える制度である。
2. 売掛金は、発生後に管理しなくても法的リスクはない。
3. 破産手続は、債務者の財産を換価し債権者に配当する清算型手続である。
4. 裁判管轄条項は、契約書に記載しても一切効力を持たない。

答え・解説

正答：破産手続は、債務者の財産を換価し債権者に配当する清算型手続である。

超簡単な解説：清算型倒産手続である。

要点：破産手続

Q057 BL2-433

債権の管理と回収 / 詐害行為取消権 / 形式：4択

次のうち、「詐害行為取消権」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 詐害行為取消権は、債務者の責任財産を不当に減少させる行為を取り消す制度である。
2. 商標の類否は、文字数だけで機械的に決まる。
3. 株主代表訴訟は、役員が株主を訴える制度である。
4. オープンソースは、どのような条件でも完全に自由に利用できる。

答え・解説

正答：詐害行為取消権は、債務者の責任財産を不当に減少させる行為を取り消す制度である。

超簡単な解説：債務者の財産散逸に対応する。

要点：詐害行為取消権

Q058 BL2-434

債権の管理と回収 / 民事再生 / 形式：4択

次のうち、「民事再生」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 職務発明では、従業員の発明は常に本人の私物として会社は一切関与できない。
2. 民事再生は、債務者の事業・生活の再建を目的とする手続である。
3. 支払督促は、債務者が異議を出しても通常訴訟に移行しない。
4. オープンソースは、どのような条件でも完全に自由に利用できる。

答え・解説

正答：民事再生は、債務者の事業・生活の再建を目的とする手続である。

超簡単な解説：再生計画に基づく弁済を行う。

要点：民事再生

Q059 BL2-449

債権の管理と回収 / 先取特権 / 形式：4択

次のうち、「先取特権」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 著作権は、契約によって一切譲渡できない。
2. 商標の類否は、文字数だけで機械的に決まる。
3. 先取特権は、法律上当然に生じる優先弁済権である。
4. 譲渡担保は、日本の実務で担保として利用されない。

答え・解説

正答：先取特権は、法律上当然に生じる優先弁済権である。

超簡単な解説：一般先取特権・特別先取特権がある。

要点：先取特権

Q060 BL2-450

債権の管理と回収 / 会社更生 / 形式：4択

次のうち、「会社更生」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 会社更生は、株式会社の大規模再建に用いられる倒産手続である。
2. インコタームズは、国内の労働時間を定める法律である。
3. 労働協約は、個々の労働者と消費者との売買契約である。
4. 破産手続は、債務者の事業継続を必ず前提とする再建型手続である。

答え・解説

正答：会社更生は、株式会社の大規模再建に用いられる倒産手続である。

超簡単な解説：担保権者も手続に取り込まれる点が特徴である。

要点：会社更生

ビジネス実務法務検定試験2級 - 債権の管理と回収

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q061 BL2-465

債権の管理と回収 / 根抵当権 / 形式：4択

次のうち、「根抵当権」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 社会保険は、企業の労務管理と一切関係しない。
2. 証人尋問は、契約条項を自動的に作成する手続である。
3. 根抵当権は、一定範囲の不特定債権を極度額の範囲で担保する。
4. 営業秘密は、社外に公開していても常に営業秘密として保護される。

答え・解説

正答：根抵当権は、一定範囲の不特定債権を極度額の範囲で担保する。

超簡単な解説：継続取引の担保として利用される。

要点：根抵当権

Q062 BL2-466

債権の管理と回収 / 別除権 / 形式：4択

次のうち、「別除権」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 破産手続では、担保権者が別除権として手続外で権利行使できる場合がある。
2. 仮処分は、金銭債権の最終回収だけを意味する。
3. 表明保証は、売買契約やM&Aでは絶対に使われない。
4. 職務発明では、従業員の発明は常に本人の私物として会社は一切関与できない。

答え・解説

正答：破産手続では、担保権者が別除権として手続外で権利行使できる場合がある。

超簡単な解説：担保権の扱いは倒産手続ごとに異なる。

要点：別除権

Q063 BL2-480

債権の管理と回収 / 与信管理 / 形式：4択

次のうち、「与信管理」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. オープンソースは、どのような条件でも完全に自由に利用できる。
2. 利益相反取引は、会社法上いかなる規制も受けない。
3. 制裁条項は、国際取引のリスク管理と無関係である。
4. 与信管理では、取引先の信用状態を確認し取引限度額を設定する。

答え・解説

正答：与信管理では、取引先の信用状態を確認し取引限度額を設定する。

超簡単な解説：決算書・支払実績・信用情報などを確認する。

要点：与信管理

Q064 BL2-481

債権の管理と回収 / 譲渡担保 / 形式：4択

次のうち、「譲渡担保」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 弁護士照会は、誰でも弁護士名で自由に乱用できる制度である。
2. 譲渡担保は、所有権移転形式を利用した非典型担保である。
3. 会社更生は、個人だけを対象とする倒産手続である。
4. 清算条項は、紛争解決後の再紛争防止と無関係である。

答え・解説

正答：譲渡担保は、所有権移転形式を利用した非典型担保である。

超簡単な解説：清算義務など判例法理に注意する。

要点：譲渡担保

Q065 BL2-496

債権の管理と回収 / 売掛金管理 / 形式：4択

次のうち、「売掛金管理」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 国際契約では、準拠法を定めることが法律上禁止されている。
2. 売掛金管理では、請求・入金・滞留状況を継続的に把握する。
3. 所有権留保は、売買契約で一切利用できない。
4. 取締役は、会社利益に反して自己利益を優先する義務を負う。

答え・解説

正答：売掛金管理では、請求・入金・滞留状況を継続的に把握する。

超簡単な解説：早期発見が回収率を左右する。

要点：売掛金管理

ビジネス実務法務検定試験2級 - 債権の管理と回収

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q066 BL2-497

債権の管理と回収 / 仮処分 / 形式：4択

次のうち、「仮処分」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 優越的地位の濫用は、独占禁止法上まったく問題にならない。
2. 電子署名は、紙文書の押印を常に法律上禁止する制度である。
3. 共同発明では、出願人を決める必要が一切ない。
4. 仮処分は、権利関係を保全するための民事保全手続である。

答え・解説

正答：仮処分は、権利関係を保全するための民事保全手続である。

超簡単な解説：差止めや地位保全などで使われる。

要点：仮処分